

鹿児島で世界をかたろう！ 第31回外国人による 日本語スピーチコンテスト



 公益財団法人鹿児島県国際交流協会

鹿児島県在住の外国の方に、日本語で意見を発表する機会を提供することで、外国の方の日本語能力の向上を図るとともに、鹿児島の国際化を考える上で、国籍や文化の違いを越えた相互理解・国際交流を深め、多文化共生の社会づくりを目的として、「鹿児島で世界を語ろう! 第31回 外国人による日本語スピーチコンテスト」を実施しました。

今回は、14カ国・地域 41名の県内在住の外国の方から応募があり、その中から、9カ国の10名の皆様が本選でスピーチを行いました。発表スピーチの内容を御紹介いたします。

令和8年2月7日(土)
カクイックス交流センター
県民ホール
(御来場者数：194名)

開会

主催者あいさつ 公益財団法人鹿児島県国際交流協会 理事長 岩元 文雄

スピーチ発表

審査結果集計

審査結果発表

表彰 最優秀賞・優秀賞・奨励賞・審査員特別賞

講評 鹿児島国際大学 国際文化学部 教授 山川 仁子

閉会

審査員(敬称略・順不同)

山川 仁子 (鹿児島国際大学 国際文化学部 教授)

高島 まり子 (鹿児島ユネスコ協会 副会長)

川口 智子 (南日本新聞社 編集局ひろば室兼編集委員 室長)

岩切 剛志 (カクイックス交流センター 館長)

米盛 幸一 (公益財団法人鹿児島県国際交流協会 専務理事)

各賞受賞者

《最優秀賞》

ブッタ シタ クマリ

日本人は一目でわかる

《優秀賞》

コッタゲ チャヌミ ギハンサ

もしも財布を拾ったら

オニェス ジョン クリスティアン ウルタダ

言葉を学ぶと、心がつながる

ユスフ サドルディン

沈黙しかできなかった俺が、

初めて声を出した日

《奨励賞》

ドウアミ メロ アンジェラ アユミ

言葉の壁より、心の壁

スナル アジト

日本に来て変わった自分

カン リン マウン マウン

異なる文化から学ぶ人間らしさ

リン ジア

習慣が異なる地域で行動を変えるべきか

プルナマワティ

鹿児島で暮らすインドネシア人の日本語

チャン ティ タイン フォン

失敗を恐れずに

《審査員特別賞》

プルナマワティ

鹿児島で暮らすインドネシア人の日本語

【最優秀賞】



氏名 ブッタ シタ クマリ

国・地域 ネパール

在日期間 1年4か月

所属 神村学園専修学校

日本人は一目でわかる

日本には、私のような外国人留学生がたくさんいます。私たちは日本語を勉強しながら、アルバイトをして、毎日一生懸命生活しています。でも、日本に来たばかりのころは分からないことだらけでした。駅や、電車の中や、スーパー、病院。聞きたいことはたくさんあります。そんな時、近くの人に聞こうとします。でも、その人も外国人だったら、二人で困って、笑うしかありません。実際に私は、日本に来たばかりのとき、駅で「あの人はきっと日本人だ」と思って声をかけたら、ネパール人だったことがあります。その時は笑ってしまいました。

そこで私は思いました。「日本人は一目でわかるのだろうか？」日本で生活しているうちに、私はだんだん分かるようになりました。実は、日本人は一目でわかります。

一つ目のサインは、ハンカチです。日本人は、ほとんどの人がハンカチを持っています。使うかどうかかわからなくても、ちゃんと準備しています。

二つ目は、傘です。晴れている日でも、バッグから傘の持ち手が見えていたら、その人はきっと日本人です。雨が降る前に、もう準備ができています。

三つ目は、バッグです。スポーツブランドのバッグなのに、外にはキャラクターのキーホルダーがたくさん付いています。一つや二つではなくて、たくさんついている人をよく見ます。特に女の子が多いですが、男の子も、大人も見かけます。忙しい日本の人が、忙しい毎日の中で、自分の「好き」を大切にしている。それを見て、私はなんだかほっとしました。

そして、私が一番面白いと思ったのは、電車の列です。みんなスマホを見ている。でも、列はまっすぐ。初めて見たときはびっくりしました。スマホを見ながらなのに、まっすぐ並ぶことができるんです。私はあっちこっちよく見てから並ぶのに。押さない、急がない、割り込まない。言葉がなくても、ルールが伝わってきます。ハンカチ、傘、バッグのキーホルダー、列。小さな行動の中に、日本の優しさと文化があります。

ほかにも、電話は小さな声で。

ぶつかりそうになる前に「すみません」。まだぶつかっていないのに！

困っている人を見たら「手伝いましょうか」と言わないで、静かに助ける。たとえば電車で席をゆずるとき、「どうぞ」と言わないでだまって席からはなれて行きます。つまり、助けるときは、静かに、自然に。

日本で大切なのは、話すことより、見ることだと思いました。相手が言葉にしなくても困っているのを感じ取り、自然にサポートするのが日本人です。

だから私は今、こう思います。日本人は、一目でわかります。

国が違って、言葉がわからなくても、「見る」心があれば人はわかり合えますね。私のような外国人を助けてくれてありがとうございます。私もだんだん、同じことができるようになってきました。私もまた、日本に来たばかりのネパール人に、日本人と間違えられるかもしれません。



【優 秀 賞】



氏 名 コッタゲ チャヌミ ギハンサ
国・地域 スリランカ
在日期間 1年10か月
所 属 神村学園専修学校

もしも財布を拾ったら

日本に来て1年が経った頃、ある夜、私は友だちの家に遊びに行った帰り道、一生懸命、自転車をこいでいました。坂道だったし、夜9時を過ぎていたので、早く帰ろうと思って、とにかく必死でこいでいました。その時、タイヤが何かを踏みました。黒くて四角くて柔らかい物、サイフ？ 私は、それを見るべきか見ないべきか一瞬迷いました。自転車を止めて、ちょっと考えました。そして、その黒い物を手に取って「どうしよう。このまま、ここに置いて見なかったことにしようか。」でも、それでいいのかな。「近くのコンビニに持って行こうか。」でも、私は外国人だから、コンビニの人は私が盗んだと思うかも知れないし。「やっぱり、警察に届けた方がいい。」でも、一人で警察に行くのは怖かったので、クラスメートに電話して、一緒に行ってもらうことにしました。

私たちは、駅前の交番に行きました。でも、交番には誰もいません。「えー。なんでー。」「どうしよう。」友だちがスマホのマップで調べたら、串木野警察署という所が出てきました。「どうする？」「行く？」私たちはスマホのマップのルート案内に従って、暗い夜の道を自転車で警察署に向かいました。

実は、私が日本に来たばかりの時、友だちが財布をなくしたことがあります。財布には国から持って来たお金が全部入っていました。彼はいつもニコニコしていて、普段はあまり心配することがない性格ですが、その時だけは、彼の笑顔が見えなくなりました。でも、次の日、警察から学校に電話がきて、先生が彼に「財布が見つかりましたよ」と言いました。彼は本当に本当に嬉しかったそうです。私はその話を後で聞いて、めっちゃびっくりしました。たくさんのお金が入った財布を落としたのに、そのまま戻ってくるなんて信じられません。スリランカなら、絶対に戻ってきません。スリランカで財布を落としてしまったら、諦めるしかありません。

1年前の友だちの話を思い出して、私は拾ったサイフを警察に届けようと思ったのです。警察に着いて、サイフを拾ったことを話すと、警察官はとても驚いたようでした。遅い時間に外国人がサイフを届けに来たからです。私は心の中で「外

国人でも、こんなことをする人はいますよ。」と言いました。

次の日、私のスマホに知らない番号から電話がかかってきました。私は怖くて2回無視しました。その後、警察から電話がきて「昨日のサイフの持ち主がわかりました。その人がお礼を言いたいそうです。」と言われて、あ、さっきの番号かと思いました。3回目に同じ番号から電話がきた時、私は恐る恐る出ました。「サイフを拾ってくれて、ありがとう。本当に助かりました。どんなお礼をすればいいかわからないくらいです。ありがとう。ありがとうございました。」と何度も何度もお礼を言われました。私は胸があたたかくなり、サイフを警察に届けて良かったと思いました。

「小さな行動でも誰かを幸せにできる。私も幸せになる。」これからも、誰かのために迷わず行動できる人でありたいと思います。



【優 秀 賞】



氏 名 オニェス ジョン
クリスティアン ウルタダ
国・地域 フィリピン
在日期間 1年4か月
所 属 九州日本語学校

言葉を学ぶと、心がつながる

みなさん、こんにちは！

Hello, everyone! Kumusta po kayo?

iHola a todos! Xin chào mọi người!

いきなり、色々な言語で挨拶しましたよね。でも、全部「こんにちは」という意味ですよ。挨拶だけで、まるで、世界を旅行しているような気持ちになりますよね。実は、今話した言葉は、私が勉強した言語なんです。よく「どうしてそんな言葉を知っているの？」と聞かれます。私の答えは簡単です。「友達を作りたいから」です。

フィリピンには170以上の方言があります。同じ国の人でも、言葉が違うことがあります。日本語学校では、私だけタガログ語で話していますが、他のフィリピン人達はビサヤ語です。だから、みんなが会話している時、私はあまりわからないのですが、よく「へええ、わからな～！字幕がないの？」と冗談で言います。ある日、友達は「僕達は3人。あなたは1人なので、合わせてよ！」と返事しました。その時私は思いました、私は言葉がちがっても、おたがいに少しずつ分かり合うことが大切だと。

全部で、私は5つの言語を知っています。フィリピン語、英語、スペイン語、日本語、そしてベトナム語も勉強し始めました。じゃあ、どうしてこれらの言語を勉強したのでしょうか？まず、フィリピン語です。これはもちろん私の母国語です。でも、ちゃんと勉強しないとイケません。お母さんが怒る時、難しい言葉を話していて、私は「ええ～なにそれ？」と聞いたら、もっと怒られます。それから、英語です。外国の友達と話す時や、フィリピンの学校でもよく使います。とても便利です。次は、スペイン語です。これは高校生の時、勉強しました。実は、冗談でテストを受けてみたら、合格してしまいました。テストはスペイン語と英語の翻訳でしたが、本当はスペイン語の単語はフィリピン語の難しい単語に似ていたもので、なんとなくわかりました。それから、日本語です。最初は無理だと思いました。漢字を見ると、頭が痛くなります。でも、私は日本に住みたいと

思いました。それに、「日本人は、私のために英語を話してくれないんだ…」と気づきました。だから、私が頑張らないといけませんでした。

最後に、ベトナム語です。私はバイトや学校でたくさんのベトナム人の友だちができました。みんなは優しく、面白くて、一緒にいると楽しいです。でも、本当の理由は、あるベトナム人の友達が好きになりました。だから、ベトナム語を勉強しています。それで、私は気づきました。言葉は、友達を作るだけじゃなくて、時々、恋もはじまります。

みなさん、『言葉ができると、心のドアが開く気がします。今でも、全然上手じゃないけど、「わかりたい」という気持ちで話しています。言葉が上手じゃなくても、気持ちがあれば、人と繋がることができます。言葉を学ぶと、世界が広がって、心も開きます。間違えても、笑われても、その思い出は友達との宝物になります。だから私は、テストのためじゃなくて、人と繋がるために言葉を学び続けたいです。これからも、「こんにちは」と「ありがとう」と「ごめんなさい」を、色々な言語で伝えていきたいです。それが、世界を優しくする一歩になると、私は信じています。』

最後に、私が知っている言葉で、「ありがとう」と言わせてください。

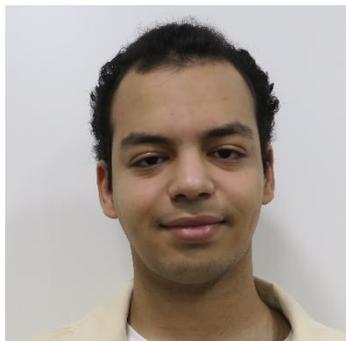
Thank you for listening, everyone! Salamat sa pakikinig!

iGracias por escuchar! Cảm ơn bạn đã lắng nghe!

みなさん、ご清聴ありがとうございました！



【優 秀 賞】



氏 名 ユスフ サドルディン
国・地域 エジプト
在日期間 6年5か月
所 属 鹿児島育英館高等学校

沈黙しかできなかつた俺が、初めて声を出した日

みなさんは、周りに人がたくさんいるのに、自分だけひとりだと感じたことはありますか。俺にはあります。それは、日本の教室でした。教室では、みんなが楽しそうにワイワイ話しています。笑い声があって、会話があって、輪があります。でも俺は、その輪の中に入れませんでした。日本語が分からない。話題も分からないどの会話にも入れない。「混ざりたい」「一緒に笑いたい」そう思っているのに、言葉が出てこない。間違えたらどう思われるか。変なことを言ったら、誤解されるんじゃないか。その怖さが、俺を沈黙にしました。笑って、うなずいて、分かったふりをして、何も言わない。周りに人はいるのに、心は、どこにもありませんでした。

そんな俺に、父が言いました。「失敗したらどうする？」少し間を置いて、こう続けました。「じゃあ逆に聞く。成功したら、お前は？」その一言で、俺は気づきました。失敗する未来ばかり考えて、成功した自分を、一度も想像していなかった。「伝わらなかつたらどうしよう」じゃない。「伝わったら、何が始まるんだ？」そう思えた瞬間でした。そして、俺は初めて声を出しました。完璧な日本語じゃありません。短くて、下手で、声は震えていました。俺が言った言葉は、たった一言。「ありがとう。」日本語で一番短くて、一番安全だと思った言葉でした。その瞬間、空気が変わりました。みんなが笑って、嬉しそうに反応してくれた。そのとき、俺は分かりました。「ああ、みんな、俺が話しかけるのを待っていてくれたんだな」って。

ここで、少し視点を広げたいと思います。今の社会には、俺みたいな人がたくさんいます。言葉が違う人。考え方が違う人。空気を読むのが苦手な人。その人たちは、弱いんじゃない。能力がないんじゃない。声を出すきっかけが、まだ見つかっていないだけです。そして、“ぼっち”は弱さじゃない。一人であるからこそ、違う視点で世界を見られる。自分で考える力が育つ。俺は今、そう思っています。あの日から、俺は変わりました。自信がついた。自分の意見を、怖がらずに言える。一人であることも、もう怖くない。むしろ、一人である時間を、逃げ

じゃなく、自分を鍛える時間にできたとき、ぼっちは最強だと思っています。俺は何度も失敗したし、怖くなることはあった。それでも声を出すことはやめなかった。

今の俺は、いろんな人の話を聞いて、アドバイスをして、誰とでも自然に話せる。沈黙しかできなかった俺は、自分の声で生きる俺になりました。沈黙しかできなかった俺が、あの日、初めて声を出しました。それは、世界を変える大きな一言じゃない。でも、俺の人生を変える一言でした。

だから、今これを聞いているあなたに伝えたい。言葉は、完璧じゃなくていい。勇気は、大きくなくていい。声は、出した瞬間から力になる。沈黙しかできなかった俺は、今日、自分の声でここに立っています。ありがとう。



【奨 励 賞】



氏 名 ドウアミ メロ アンジェラ アユミ
国・地域 ブラジル
在日期間 10か月
所 属 出水市役所

言葉の壁より、心の壁

みなさん、こんにちは。私は日系ブラジル人の、銅網アンジェラです。突然ですが、私は人生で、4回「外国人」になりました。同じ国、日本で、4回です。

1回目の外国人としての経験は、両親の出稼ぎ中に、日本で生まれた時です。幼少期から14歳まで、約14年間を永住者として日本で過ごしました。当時、私が住んでいた地域には多くのブラジル人がいて、私自身ブラジル人学校に通っていたということもあり、自分と似た「仲間」がたくさんいました。ブラジルに住んだことはなくても、母国の文化や言葉、人に囲まれながら生活していました。そのため、私は「外国人」であることを、あまり強く意識したことがありませんでした。

2回目は、留学生として日本に来た時です。出稼ぎではなく、「勉強」のために来ました。日本の大学生活はとても充実していましたが、留学生という立ち位置には、すぐには慣れませんでした。なぜかというと、それまでの私の外国人としての経験は、「出稼ぎの子ども」であることだけだったからです。勉強のために来ているだけなのに、こんなにも支援してくれる人がいて、私の文化に興味を持ってくれる人がいるのだと。それがとても新鮮でした。

3回目は、観光で10日間東京・京都・大阪に来た時です。観光客として日本を見たとき、それまで「当たり前」だと思っていた日本のおもてなしが、より一層、素敵に感じられました。

そしてこの時、ある経験をしました。それまで他の国を訪れ、言葉が分からず困った経験をした自分だからこそ、日本で困っている人に、声をかけ、手助けをすることができたのです。この経験が私の4回目の「外国人」生活に繋がりました。

この4回目が、仕事として日本に来た、今の私です。私は現在、鹿児島県出水市、鶴の町の市役所で、外国人のサポートをする仕事をしています。

永住者、留学生、観光客。さまざまな立場の外国人を経験してきたからこそ、今の私にできる支援があると思っています。それは、言葉の壁だけではなく、心の壁に寄り添うことです。

私は、「通じない」「分かってもらえない」という怖い気持ちが痛いほど分かります。私がいわゆるバイリンガルであっても、99%正しい日本語をはなしたとしても、耳を傾けてもらえないことが何度もありました。

同時に、「知ってるんだ!」「分かってもらえた!」という、あの嬉しさも、よく知っています。

出水に来て、まだ1年も経っていません。しかし、気がついたことが一つあります。それは、南米の人も、東南アジアの人も、大人でも子どもでも、誰かとつながりたいという気持ちを心のどこかに持っている、それはみんな同じではないか、ということです。

私にとって「仲間」とは、今まで、祖国ブラジルの家族であり、日系ブラジル人コミュニティであり、多国籍な留学生の友だちなどであったと思います。そして、今、新たに仕事・生活を営んでいる出水の同僚・ご近所の魚屋さん・偶然知り合ったステキな友人たちなど、日本人・外国人を問わず、どんどん広がっています。それは、ひとえに地域の方々が私という人間を共に暮らす「仲間」として受け入れてくださっているからだと思います。

振り返ると、私が経験した異なる4つの「外国人」生活は、もしかすると、たくさんの人と繋がるためにあったものかもしれません。私がまだ知らない気持ちや立場は、きっと山ほどあると思います。だからこそ、これからも学び続け、一人でも多くの人と、人をつないでいく存在、そして言葉を理解するだけでなく、その言葉で何を伝えようとしているのかを聞ける存在：心の壁に寄り添う存在でありたいと思います。

皆さんも、ぜひ、言葉の後ろに潜んでいる心の声も聞いてください。

ご清聴、ありがとうございました。



【奨励賞】



氏名 スナル アジト
国・地域 ネパール
在日期間 3年10か月
所属 第一工科大学

日本に来て変わった自分

皆さん、こんにちは。

生は、新しい知識や環境に入っていき、変わっていくものです。その通りに、私も日本に来てから自分でも驚くほど大きく変わりました。初めに留学を決めたとき、私は「新しい知識を学びたい」「土木工学の技術を身につけたい」という気持ちだけを持っていました。しかし、実際に日本で生活していく中で変わったのは、ただ勉強だけではありません。考え方、生活の態度、人との付き合い方、そして自分自身を見つめる視線が、少しずつ大きく成長していきました。

まず最初に変わったのは、時間に対する意識です。日本では、電車もバスも正確に来ますし、学校やアルバイトでも、時間を守ることが当たり前のように求められます。最初のころ、私は少し遅れても大丈夫だとおもいました。しかし日本では、「時間を守ることは相手を大切にすること」だと教えられ、その考え方にとても感動しました。今では、予定より少し早めに行動する習慣が身につき、自分の生活にも良いリズムが生まれました。

次に変わったのは、人への気遣いです。日本の人々は、電車の中での静かな過ごし方、並ぶときの順番、初めて会う人への挨拶など、当たり前のように周りを思いやって行動しています。私はこの文化を見て、「自分も周りの人を大切にできる人になりたい」と自然に思うようになりました。今では、教室でもアルバイトでも、相手への小さな気遣いを大切にするようになりました。そしてそれが人間関係を良くし、自分の毎日をもっと明るくしてくれていると感じています。

また、日本での一人暮らしは、私を強くしてくれました。親から離れて遠くの国では一人暮らしするのは簡単ではありません。家事、勉強、お金の管理、体調の管理など、すべてを自分でしなければなりません。時には不安になったり、疲れてやる気が出なかつたりすることもありました。しかし、そのたびに「ここで頑張らなければ、自分の夢に近づけない」と自分を励ましました。今振り返ると、この経験が私に大きな自信を与えてくれたと思います。

さらに、日本で学んだ土木工学の授業や現場の見学を通して、私は自分の夢をもっととはっきりと持つようになりました。日本の道路、橋、ダム、そして地震に強い構造物を見

るたびに、「いつか自分もこんなプロジェクトに関わりたい」という気持ちが強くなります。将来は、ここで学んだ技術と思いやりの心を自分の国に持ち帰り、人々の生活を安全で便利にする仕事がしたいと考えるようになりました。

最後に、日本に来て一番変わったのは「自分を信じる力」です。最初は言葉も環境も分からず、不安ばかりでした。しかし、毎日新しいことに挑戦し、少しずつできることが増えていく中で、「自分ならなんでもできる」という気持ちが生まれました。日本での経験は、私に生きる力と未来への希望を教えてくださいました。

これからも、日本で学んだことを大切に、努力を続けていきたいと思います。そしていつの日か、今日よりもっと成長した自分を胸に張って見せられるように、これからも前に進んでいきます。

この思いを、私と同じように日本で学んでいる皆さん、そしてこれから日本に来る皆さんへのメッセージとして伝えたいと思います。もちろん、新しい知識や環境に慣れることは簡単ではありません。しかし、諦めずに自分の目標に向かって一歩ずつ前に進んでいけば、きっといつの日か自分の夢を現実にできると信じています。



【奨 励 賞】



氏 名 カン リン マウン マウン

国・地域 ミャンマー

在日期間 1年10か月

所 属 神村学園専修学校

異なる文化から学ぶ人間らしさ

「遠くの親戚より近くの他人」。これは、日本に来て自分の経験を通して実感したことわざです。2年ほど前、国にいた頃の私は、人間関係について真剣に考えたことがありませんでした。当時は、ただそばに友達がいればそれで十分だと思っていました。そのため、自分と関係のないことや、自分に直接関わらないことは、簡単に無視してしまう傾向がありました。また、周りにいるすべての人とのつながりを大切にし、敬意を払うべきだということにも気づいていませんでした。さらに、誰かを手伝うことを真剣に考えたこともなく、自分のことばかりを優先していました。しかし、日本に来たことは、私のその狭かった視野を大きく変える出来事となりました。

国で内戦が起こり、大学に通うことが難しくなった私は、日本に留学することを決意しました。異なる国で、異なる人々の中で自立した生活を始めた私は、想像以上に多くの困難に直面しました。日常生活の問題、健康面の不安、精神的・心理的なストレスなど、さまざまな悩みを抱える中で、私を助けてくれたのは、周りにいた日本人の方々でした。その存在は、私にとって大きな心の支えとなりました。

例えば、私がアルバイトをしているレストランで一緒に働いている方々は、私に自分の息子のようによく接してくれます。その方々はなぜか私を「マウン先生」と呼び、仕事の終わりにはいつも「マウン先生、これ今日の晩ご飯にしてください」と言って、おいしい食べ物を袋に入れて用意してくれます。また、私がお金に困っていたときには、「マウン先生、お米いる？」と声をかけてくださり、お米をいただいたことが何度もあります。その「マウン先生」という呼びかたと、たっぷりの優しさは、異国で生活する私の心を温かくし、人はお互いに助け合うことで良い関係を築けるのだと感じさせてくれました。

それだけでなく、私のアルバイト先の所長からも多くのことを学びました。私はガソリンスタンドでもアルバイトをしており、そこの所長は、上司と部下という関係ではなく、自分の子どもや友達のように優しく接してくれます。去年の冬、

私の部屋ではエアコンが使えず、とても寒い中で風邪をひいてしまいました。そのことを知った所長は、仕事で忙しいにもかかわらず、ご自宅のストーブを貸してくださると言い、さらに車で私の部屋まで届けてくれました。自分の子どもでもなく、日本人でもない、ただの一人の外国人である私を、ここまで大切にしてくれる姿を見て、私はそれまでの人間関係に対する考え方を大きく変えるようになりました。そして、私だけでなく誰に対しても本音で手伝ってくれる所長の姿から、周りの人に思いやりを持つことの大切さを学びました。

日本に来てから、さまざまな困難がありましたが、このような人たちに出会えたおかげで、留学したことを今でも後悔していません。最初に述べたことわざの通り、近くにいる人々の存在や価値に気づき、それを大切にするようになりました。言葉ではなく行動を通して日本の方々から教えられたのは、『『自分自身』という執着を捨て、周りの人のために考え、助け合うこと。人種や宗教、国籍という壁を取り払い、ただ『一人の人間』として向き合い、支え合うこと』です。それこそが、私が異なる文化から学んだ人間らしさでした。人間らしくて、愛おしくて、素晴らしいことだと思います。みなさんもそう思われませんか。



【奨 励 賞】



氏 名 リン ジア
国・地域 中国
在日期間 2年
所 属 九州日本語学校

習慣が異なる地域で行動を変えるべきか

皆さん、日本で習慣の違いから不適切なことをしてしまい、とても恥ずかしい思いをしたことはありませんか？

例えば、電車の中で電話をかけて周りの視線を感じたり、公園を歩くときのルールを知らずに注意されたりといったことです。もちろん、これらは、他人のことではなく、全て私の経験です。後でルールを知った時に、顔がバーンと赤くなりました。「周りの人にマナーを知らない人と思われたらどうか、どうしてこんなことを起こす前にルールやマナーを知ることができなかったのだろうか。」と悔やみました。

先月受けた「文化や習慣が違う地域で、自分の行動を変えるべきか」をテーマとした作文の試験を思い出し、考え直してみました。そこで、私が異文化の出会いで感じたことを二つお話します。

今年の5月、私は日本人の家を訪問し、その家族と一緒に文化交流を行うホームビジットというイベントに参加しました。そこで、多くの異なる文化を学びました。特に印象に残っているのは、結婚式での服装の違いです。ホストファミリーのお母さんが、「日本では、親せきの結婚式には、黒い服を着ていく。」とおっしゃるのをきいてびっくりして「ええ？中国では赤い服を着ていきますよ。」と言いました。日本では、結婚する人たちを引き立てる為に地味な色を着るそうですが、中国では、結婚することへの喜びを表すべきだと考えられているので、めでたい赤い服を着るのが一般的です。考え方の違いから文化や習慣が異なりますね？皆さんの国では、結婚式にどんな服を着ていきますか？

また、アルバイト先での体験です。ある日私がテーブルを片付けていると、女将さんが「リンちゃん、片付けが終わったらテーブルもちゃんと拭いてね。」とおっしゃいました。

私は、いつものように調子よく「うん」と返事したところ、女将さんはポンポンと私の頭を軽く叩いて「年上の人には『はい。分かりました。』とちゃんと返事しないと無礼に思われるよ。」と教えてくださいました。その時、私はとても驚き

ました。中国では、知っている人に対して「うん」と答えるのは日常的なものですから。でも、日本では無礼者になってしまうんだ。文化が違うと他の国で、使えるわけではないんだと思いました。

これらの経験を通して、私は迷いました。「簡単に行動を変えたら本当の自分を見失うのではないか。」「故郷の習慣を守らないと、自国の文化を忘れてしまうのではないか。」結婚式での服の色が違うのを聞いて戸惑いを感じたり、女将さんに注意された時には「こんな小さなことで叱るのは厳しくない?」と少し反発を感じたりした瞬間もありました。違う文化に出会う度にどちらが正しいのか分からず、不安を感じることもありました。でも、たくさんの経験をするうちに分かってきました。文化や習慣に正解は無く、それぞれの習慣は、それらの地域の歴史や環境から育まれた貴重なものなのです。行動を調整するのは「自分を曲げる」のではなく、「相手を尊重する」気持ちの表れなのです。電車の中で静かに過ごすことや丁寧に返事することも自分の国の文化を否定するのではなく、心を通わせるきっかけなのです。文化はさまざまです。だからこそ、謙虚に学ぶ姿勢が大切です。皆さん、一緒に多様な文化を理解して、その文化の面白さを楽しんでいきましょう。きっと、より素敵な留学生活になるとと思います。

では、皆さんは文化や習慣が違う地域で、自分の行動を変えるべきだと思いますか。

ご清聴、ありがとうございました。



【奨 励 賞】【審査員特別賞】



氏 名 プルナマワティ
国・地域 インドネシア
在日期間 25年11か月
所 属 九州アジア人財開発協同組合

鹿児島で暮らすインドネシア人の日本語

「将来なにをなるの～？ 公務員。」

このCMを覚えていますか。あのCMでは、鹿児島弁特有のイントネーションがはっきりと聞き取れますね。

鹿児島県に住む外国人、特に鹿児島市以外の地域で働く外国人にとって、鹿児島弁がいかに難しいかは広く知られています。インドネシア人労働者の中にも、年配の方から鹿児島弁で作業指示を受けると、その意味を理解するのに苦勞する人が多くいます。彼らは日本語を学びながら、同時に鹿児島弁の理解にも努めています。

「あよ もって いっきゃん。気を付けやんよ」

「そや とらんじ そけ おっきゃん」

「あっち いんなあ。あんねど」

みなさんは、これらの言葉の意味が分かりましたか？私も鹿児島弁を話せるようになるために、一生懸命練習しました。本当に難しかったです。

私は大崎町で14年間働きました。そのため、私のイントネーションは鹿児島弁に似ていると言われます。北海道へ行ったときに「あなたは薩摩の人ですか」と言われました。

大崎町役場で働いていた頃、電話対応が一番ドキドキしました。

「もしもし、こん プラはどけいるっとか わからん」

「こん ごんな なんの ごんな」

町民の方からこのような電話があったとき、私は頭が真っ白になりました。

「申し訳ございません」と答えるのが精一杯でした。

すると町民の方は、「あら、あなたは外国人ね」とおっしゃいました。

私はもう一度「申し訳ございません」と伝えて、すぐに課長に電話を代わりました。私の副町長も鹿児島弁で、よく声をかけてくださいました。

「プルさん、元気 やっけ」

「今日さみなあ、風邪をひかんーご。気を付けーやんよ」

「今度 いっしょ き めしょ くがな」

私は副町長の鹿児島弁がまったく分かりませんでした。副町長は私の顔を見たとき、「今度、一緒にご飯を食べましょうか」とおっしゃいました。

鹿児島県で働くインドネシア人労働者の中には、難解な鹿児島弁を理解できず、各所でさまざまなトラブルが生じることがあります。それでも彼らは笑顔を絶やさず、鹿児島弁や、鹿児島の人々が持つ温かい心を理解しようと一生懸命に努力しています。

鹿児島弁はイントネーションが非常に特徴的であるため、インドネシアの人々が習得する日本語の発音も、自然と鹿児島弁に近いイントネーションへと寄っていくようです。これは、本人の意図とは関係なく、鹿児島弁の文化的な特徴を身につけていくことにもつながっていると云えるでしょう。

あいがともさげもした。

ありがとうございました



【奨励賞】



氏名 チャン ティ タイン フォン
国・地域 ベトナム
在日期間 2年4か月
所属 株式会社南日本総合サービス

失敗を恐れずに

みなさん、こんにちは。南日本総合サービスから来ました、チャンティティンフォンと申します。

技能実習生として鹿児島に来て2年になります。

現在は病院の清掃スタッフとして働きながら日々学んでいます。

皆さんは「自分がまだまだ未熟だな」と感じたり、「失敗するのが怖い」と思ったことはありませんか？

今日は私が経験した「失敗」と「挑戦」についてお話しします。

日本に来る前、私は田舎の小さなレストランで働いていました。接客の経験がほとんどなく、その大切さに気づけなかったことが、今思うと残念で失敗でした。日本に来て1年が過ぎた頃、私は思いがけず父と別れることになりました。急いでベトナムに帰る飛行機の中で「お父さん。待っててね!」と祈りましたが、病気だった父に奇跡は起きませんでした。家族みんなが悲しみに包まれる中、私は「強く生きよう」と心に決めたのです。しかし日本に戻ってからは気持ちを立て直すことができず、やる気も出ませんでした。

「ドラえもんの不思議なポケットがあったら過去に戻れるのに・・・」

そんなことばかり思いながら、父への悲しみに耐えていた時、ドラえもんの映画の言葉が心に飛び込んできました。

「もし君が失敗を恐れているなら、いつまでたっても君は失敗のままだよ。それでもいいの?」と。その言葉を聞いた瞬間、私はしばらく動けませんでした。

それ以来、ドラえもんの言葉は私にとって魔法の言葉になり、どんな失敗や悲しみがあっても前を向いて歩いて行こうと勇気づけられました。

人生の中ではさまざまな失敗や悲しみを経験すると思います。

このスピーチコンテストは私にとって新しい挑戦です。参加を決めた時、周りの人から、「本当にできるの? みんなすごい人ばかりだよ、勝てるわけないよ!」と言われました。以前の私なら「やっぱり無理だ」と諦めていたと思います。

ですが今は「私ならできる!」と自分に言い聞かせてこの場に臨みました。

なぜならば、諦めずに努力しチャレンジする精神が大切だと気づいたからです。私は自分のためだけではなく家族のためにも、できないことから逃げず、毎日少しずつ成長しようと努力しています。

日本の接客は世界で有名です。今、私は病院の清掃をしています。建物をキレイにするだけではなく、サービス業として「挨拶・笑顔・身だしなみ、コミュニケーション」の大切さを学び、実践しています。

最初はとても難しかったです。この2年間で、皆さんの熱心で親切な指導のおかげで大きく成長できたと感じています。教科書や学校では学べない貴重な経験を通して、私は気づきました。「できないことを恐れていると成長できない」ということ。困難なときにいつも支えてくれた会社のみなさん、仲間のみなさんに心から感謝しています。最後に、私が自分に言い聞かせている言葉を皆さんに伝えたいと思います。

『失敗を恐れずに!!!』



当日の様子



主催

公益財団法人 鹿児島県国際交流協会

後援

鹿児島県	鹿児島県教育委員会
鹿児島市	鹿児島市教育委員会
鹿児島商工会議所	(公社)鹿児島青年会議所
インドネシア日本かごしま協会	鹿児島県日中友好協会
鹿児島県日韓親善協会	鹿児島県マレーシア友好協会
鹿児島日越友好協会	鹿児島市日中友好協会
鹿児島日英協会	鹿児島日豪協会
鹿児島日独協会	鹿児島日仏協会
鹿児島日華親善協会	国立大学法人鹿児島大学
国立大学法人鹿屋体育大学	鹿児島国際大学
志學館大学	第一工科大学
鹿児島純心大学	鹿児島県立短期大学
鹿児島工業高等専門学校	学校法人赤塚学園
学校法人神村学園高等部・神村学園専修学校	
KBCC 鹿児島情報ビジネス公務員専門学校	
学校法人原田学園鹿児島キャリアデザイン専門学校	
九州日本語学校	
南日本新聞社	NHK鹿児島放送局
MBC 南日本放送	KTS鹿児島テレビ
KKB 鹿児島放送	KYT鹿児島読売テレビ

(順不同)

協賛各社・各団体



御協賛ありがとうございました。